

28年度学校評価報告書

学校名 深谷市立大寄小学校

校長名 宇野 澄男 印

1 **学校評価のねらい** (学校・園としての受け止め)

本校の教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況を整理して取組の適切さを検証することにより、今後の組織的・継続的な改善を図る。また、学校関係者保護者等から教育活動その他の学校運営に対する理解と参画を得て、地域に根ざした信頼される学校づくりを進める。

2 **評価の方法** (自己評価・学校関係者評価・第三者評価の別、回数、方法等)

- (1) 全教職員から教育活動その他の学校運営に対して年2回、評価を実施する。
- (2) 学校関係者(学校運営協議会員)から教育活動その他の学校運営に対して年1回、評価を実施する。
- (3) 全保護者から教育活動その他の学校運営に対して年1回、評価を実施する。
- (4) 全児童から学校生活・家庭生活について年2回、自己評価する。

3 **評価の結果**

(1) 主な指標の変化

(例)「学校が好きだという生徒が80%から90%になった」

(1) 主な指標の変化

- 教職員の評価では、「確かな学力の定着」がどの項目でも90%以上の高評価であり、学校研究課題への取組や一人一研究授業などの成果だと思われる。
- 保護者の評価では、全25項目中16項目で90%以上の評価を得ている。特に「職員の協力体制」「学校からの情報発信」は高い評価が得られた。意見として、登下校中などのあいさつが今ひとつであるとの声があった。
- 保護者の評価では、「規則正しい生活習慣が身についている」が90.5%、(昨年81.3%)で向上した。

(2) 学校挙行く目標の具現化に向けた指標目標

学校教育目標の具現化に向け、本校で取り組んでいる教育活動や学校運営は概ね高い評価を得られており、学習にも前向きに取り組み、児童も楽しい学校生活を送っている。

学力について、また、全国学力・学習状況調査や埼玉県学力・学習状況調査においても概ね市の平均を上回っており、大寄小版3つの達成目標・効果検証の過去問

題を活用した校内調査でも、全体の達成率が98%であり、指導の成果が見られる。

体力では、県平均を上回った項目は96項目中82項目あった。平成27年度課題であった走力は、かなり向上した。課題は跳躍力である。

規律では、あいさつや学習規律は、高い達成率であるが、靴そろえ、ていねいな言葉遣いは、達成率が低調であった。生活規律・生活習慣について、学校と家庭で連携した指導をしていくことが、今後の課題である。

(3) 学校研究課題の具現化に向けた指標

○年間5回の研究授業を実施した結果、「学校研究課題や少人数指導に向けた計画が適切であるが100%」であった。

○わかる授業を目指し、発問や指導法を工夫しているも100%であった。

○今後は、教師が本時のめあてをしっかりと明示し、児童がめあてに対して達成感を味わわせるよう、教材研究を深めていく。

4 次年度に向けての展望

※年度間の変化をみとり考察する

○ふだんの授業においても、研究課題に関わる内容での取組を継続していくことで、「大寄小授業スタンダード」に取り組んでいく。

○児童の学力向上に対して、学校研究課題（言語活動の充実）の取組やB問題の活用、大寄版3つの達成目標の取組の継続等職員研修の充実を図っていく。

○その他、児童の生きる力の育成に向け、地域や保護者の意見を踏まえながら学校評価で課題となっている事項を改善し評価を高められるよう、学校運営並びに教育活動の推進を図っていく。

○児童のあいさつでは、保護者、職員の評価では82.3%であったが、児童はあいさつをよくしているが、声が小さいことが課題である。「あいさつがしっかりできる児童」（保護者）を目指していく。